

出島橋



写真-1 繊細なシルエットの出島橋側面

岡林隆敏

OKABAYASHI Takatoshi
フェロー会員 工博
長崎大学教授 工学部社会開発工学科

長崎市の歴史とともに歩む「出島橋」

長崎市の出島の東側に、中島川を渡る鉄製の「出島橋」がある。この橋梁は、市道江戸町千馬線にあり、出島史跡の東の端から長崎県庁の裏門方向に架かっている。長崎市の橋梁台帳によれば、橋長 36.7 m、全幅 5.5 m となっている。

「出島橋」は 1890（明治 23）年に中島川の河口に架設された「新川口橋」が、1910（明治 43）年に現在地に移築されたものである。1891（明治 24）年、長崎市が市制施行した。この橋は、供用されている日本の道路橋の中で最も古く、現在、114 歳で、日々、日本の道路橋の長寿記録を更新している。現在の橋と比べると華奢で、構造部材は大きなボルトで結合され、小さな部材はリベットで繋がれた、プラットラス橋である。長崎市が誇る近代化遺産の一つである。

明治中期から後期にかけて長崎市の港湾改修事業が行われたが、この歴史的背景の中で、「出島橋」が建設され、現地に移築されて、橋名が代わって現在まで残されてきた。このような「出島橋」が建設された歴史的経緯と、「出島橋」の変遷について紹介する。

「出島橋」が建設された頃の長崎

幕末から明治初期の混乱のために、長崎港の維持管理が十分に行われず、長崎港に流入する河川の河口では、土砂の堆積が著しく進行した。このような港の状況を憂慮した長崎県は、明治政府に長崎港の調査を依頼した。これを受けて、政府は 1887（明治 10）年に内務省の楳林高之と J. デ・レーケを長崎に派遣し、長崎港を含め周辺の調査を行っている。この調査の結果、長崎港の改修事業が実施された。この工事は 1885（明治 18）年 5 月より、内務省の直轄事業として行われ、1886（明治 19）年より、中島川

の変流、出島突堤の築造および港内要部の浚渫に着手し、1893（明治 26）年に一連の工事は竣工した。

中島川変流工事では、流出土砂を港内の不要部に放流するために、中島川を出島の背後に変流した。出島の変流により新しい中島川にいくつかの橋梁が架設された。第 1 次港湾改良事業に関連して、市街地中心部の橋梁は新しく近代橋梁に架け換えられた。

近代橋梁の黎明期

この第 1 次長崎港港湾改修事業により、長崎市街地沿岸部の道路が、近代的な道路に整備された。この道路整備により、1888（明治 21）年から 1890（明治 23）年にかけて、沿岸部の橋梁が伝統的な日本式の木橋から、近代的な橋梁技術により設計された木鉄混交のトラス橋に架け替えられた。市街地中心部の中島川では、1888（明治 21）年に「出島橋」が新設され、一連の橋梁建設の最後の 1890（明治 23）年に、中島川の河口に鉄製のトラス橋である新川口橋が新設されている。

当時の長崎市の木鉄混交のトラス形式の橋梁を、長崎大学所蔵「幕末・明治期古写真コレクション」に見ることができる。写真-3 は、1892（明治 25）年頃の、「出島橋」と「長久橋」である。写真の向こう側が「出島橋」である。これらの橋梁の橋梁形式と諸元は次のようになっている。

[諸元]

出島橋 木鉄混合橋 プラットラス形式

橋長：百拾呎（33.33 m）、幅員：拾八呎（5.49 m）

新川口橋 鉄橋 プラットラス形式

橋長：百拾四呎（34.77 m）、幅員：拾八呎（5.49 m）



写真-2 唐草模様の装飾と橋名板が見える出島橋正面

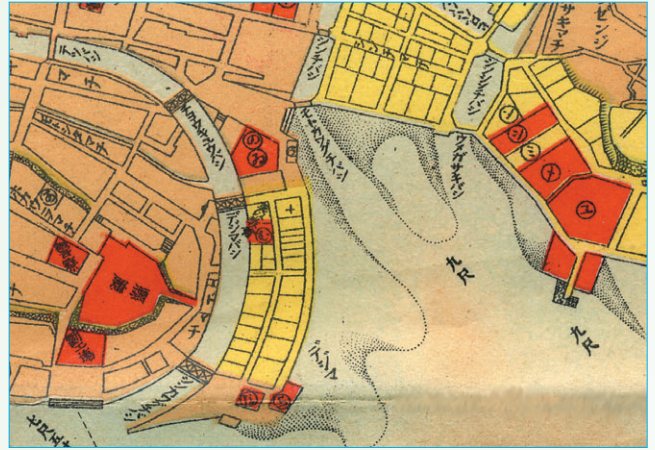


図-1 1892(明治25)年頃の中島川河口部と出島



写真-3 1892(明治25)年頃の木鉄混交橋の初代「出島橋」



写真-4 1892(明治25)年頃の「新川口橋」

「新川口橋」の新設と移築

長崎市街地の鳥瞰写真の中島川の河口に、写真4の「新川口橋」が撮影されている。「新川口橋」の建設の経緯は、当時長崎市で発行された新聞、「鎮西日報」の記事の中に見ることができる。

明治23年6月21日 橋梁架設工事

「豫て報導せし出島より江戸町に架設する橋梁は堅牢なる鉄橋となす目論見にて日本土木会社が七千円に落札せしめ右工事鉄材を米国に注文して此程既に到着せしを以て既に足場取立に従事するが右架設につき土木会社の技師岡實康氏は一兩日中來崎する筈なれば同氏の到着を待ちて鉄材の組立に取りかかる由因に記す同橋は長二十間巾三間の目論見なりと云う」

これらの記事の内容より、「新川口橋」の材料はアメリカから輸入し、大日本土木会社の岡實康の監督の下に、1890(明治23)年中に架設されていることがわかる。

「出島橋」の右岸の橋名板には、出島橋の下に「明治四十三年架」と記してある謎が残る。「長崎市制50年史」第13章第2節橋梁の中に、次のような記述がある。

「四十二年十一月二十四日市会に於て江戸町より出島に至る新川口橋は下流の玉江橋に接近し、交通上存置の要が少ないからこれを撤去し、同材料を利用して、県費で架換の出島橋の工事を市で請負う事を決議した。」

これらの資料により、橋名板に「明治四十三年架」とある現在の「出島橋」は、1890(明治23)年架設の「新川口橋」を、1910(明治43)年に解体移築したものであることがわかる。

長崎市の近代化遺産「出島橋」

出島の対岸から「出島橋」越しに、1878(明治11)年に建設された旧出島神学校が見え、いずれも淡いブルーで塗られた橋と教会の川縁の風景は、繁栄した明治中期の長崎市の歴史的景観を残す唯一の場所になっている。世紀を越え、原爆の爆風にも耐えて残った「出島橋」。夜にはライトアップされ、長崎の人から「鉄の橋」と言って親しまれている。2003(平成15)年11月には土木学会より選奨土木遺産に指定された。

参考文献

- 1- 岡林隆敏・島田省三：「出島橋」の歴史的考察と建設年代の推定，土木史研究，No.12，pp.227-234，1992.6
- 2- 岡林隆敏・吉田優：長崎港の埋立てと近代都市の形成，土木史研究，No.12，pp.295-304，1992.6
- 3- 岡林隆敏・島田省三：長崎市における近代橋梁建設に関する歴史的考察，土木史研究，No.13，pp.47-56，1993.6
- 4- 長崎市役所：長崎市制五十年史，1939.11
- 5- 長崎大学附属図書館：「幕末・明治期画像データベース」
<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp>
- 6- 長崎大学附属図書館：「幕末・明治期古写真超高精細画像データベース」
<http://zoomphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp>